

芸術祭直行便

大地の芸術祭 越後妻有
アートトリエンナーレ 2018

水と土の芸術祭 2018

この夏は新潟で
アートの旅を満喫しよう!



期間

2018年 7月29日(日) ~ 9月17日(月・祝)

週2日(月・金曜日) 1日1往復運行

行程

越後妻有行き

新潟空港
13:30 発

大かま万代島多目的広場 (乗車のみ)
14:00

十日町駅
16:30 着

新潟空港行き

十日町駅
9:00 発

大かま万代島多目的広場 (降車のみ)
11:30

新潟空港
12:00 着

水と土の
芸術祭会場

現代アートの
の世界へ!

運賃

おひとり様・片道

大人(中学生以上) **2,500円**

小人(小学生) **1,500円**

※小学生未満は無料

事前予約制

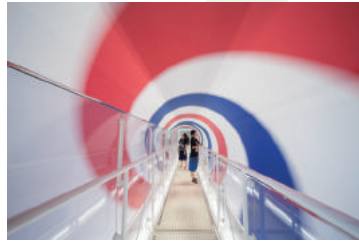
受付締切 | 前日 17:00 まで

※予約がない場合は運行しません。



大地の芸術祭???

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、過疎高齢化の進む日本有数の豪雪地・越後妻有（新潟県十日町市、津南町）を舞台に全国に先駆けて、2000年から3年に1度開催している世界最大級の国際芸術祭です。里山の暮らしが今も豊かに残っている地域全体に作品が点在し、アートを道しるべに里山をめぐる新しい旅は国内外から注目を集めています。前回2015年は約51万人の来場者数を記録しました。



カールステン・ヘラー「Rolling Cylinder, 2012」
Photo by Osamu Nakamura



草間彌生「花咲ける妻有」
Photo by Ayumi Yanagi

越後妻有アートトリエンナーレ2018の見どころ

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018」では、東京23区（約620km²）よりも広い7つのエリアに、約380点のアート作品が展示されています。大自然を満喫しながら、アートをめぐる旅をお楽しみください！

越後妻有里山現代美術館 [キナーレ]

十日町駅から徒歩10分、大地の芸術祭のスタートゲートとして位置する拠点施設。美術館の常設展示に加え、会期に合わせて展開するレアンドロ・エルリッヒの新作や「2018年の〈方丈記私記〉」が楽しめます。



レアンドロ・エルリッヒ「Palimpsest: 空の池」イメージ



EAT & ART TARO「ザおこめショー」イメージ

食 越後しなのがわバル

旬の食材を使った雪国の郷土料理を提供。会期中はおにぎりでお米の食べ比べる「ザおこめショー」を開催！

2018年の〈方丈記私記〉

約30個の四畳半スペースで、建築家やアーティストが様々な空間を展開します。



ドミニク・ペローアーキテクチャー「DRAPE HOUSE」イメージ



小川次郎/アトリエムサ「そば処 割過亭」イメージ

そばやお酒などの飲食も充実！

まつだい「農舞台」

ほくほく線「まつだい駅」駅直結の松代エリアの拠点施設。すぐ裏にある城山には約30点もの作品群があるので散策するのもオススメ！



Photo: Osamu Nakamura



食 越後まつだい里山食堂

アートな空間で食す地元野菜たっぷりのランチビュッフェが人気。

日本3大渓谷とアートの融合!!

「Light Cave」マ・ヤンソン / MADアーキテクト

国の名勝天然記念物 清津峡鑑賞施設「清津峡渓谷トンネル」を改修した、自然体感型のアート施設。長いトンネル内にあるアートなトイレやカフェも注目！



Photo: Osamu Nakamura



Photo: Gentaro Ishizuka

「Kiss&Goodbye」ジミー・リャオ

台湾のベストセラー絵本作家が越後妻有を舞台に制作した絵本『幸せのきつぷ Kiss & Goodbye』の世界を再現した作品。

JR 飯山線 土市駅、越後水沢駅の2カ所で展開！

2018年の新作「思い出ポスト」も展示

にいがた夏の見どころ

水と土の芸術祭 2018

2009年から3年に1度、新潟市内で開催している「水と土の芸術祭」。新潟市の水と土によって形成された独自の風土や文化に光をあてることで、人間と自然との関わりかたを見つめ直し、未来を展望していくヒントとなるものを探る芸術祭です。

会期 2018年7月14日（土）～10月8日（月・祝）

会場 新潟市内全域

メイン会場：万代島多目的広場（大かま・屋外広場）

サテライト会場：ゆいぽーと 新潟市芸術創造村・国際青少年センター

その他、市内全域で各プロジェクトを展開

自分だけのオリジナルバスツアーをつくろう！

大地の芸術祭2018「セレクトバスツアー」

車がなくとも大丈夫！

十日町駅西口、まつだい駅、津南駅の3カ所を起点とし、作品展示箇所まで行くミニツアーを会期中毎日運行します。話題の新作や人気の作品を約半日かけてめぐるアートと里山の旅を楽しもう！

料金 大人3,000円 小・中学生2,000円
3歳～小学生未満、大人ひとりにつき1名まで無料
※乗車券は1コース、1回乗車のみ有効
※乗車日の3日前まで予約可、残席あれば当日販売

問合せ 十日町市観光協会 TEL: 025-757-3345

↓予約はこちら



新潟県で唯一の国宝を観てみませんか？

この火焰型土器は、約5,500～4,500年前の縄文時代中期に作られた土器で、日本の国宝で一番古いものとして指定されています。

その形状が「燃え盛る炎」のように見られることから「火焰型土器」と名付けられました。「火焰型土器」の高度な制作技術は、日本のモノづくりにおける伝統技術の源とも考えられ、さらに、この複雑で豊かなデザイン性は、日本の美意識の原点として捉えられ世界中でも高く評価されています。

2017年開催の京都国立博物館「国宝」展でも大人気でした。

十日町市博物館

入館料 300円（中学生以下無料）

休館日 8月6、20、27日

9月3、10、18、25日

問合せ 十日町市博物館

TEL: 025-757-5531